

流山稲門会

【交譲葉】俳句の会 報告

令和六年十月句会(第一四九回)

兼題 「もみじ」

催日 令和六年十月二十六日

開催場所 生涯学習センター

出席者 七名

投句者・選句者 七名

(三点句)

●よきよきよ

茎差し出でて曼殊沙華

夢心

(二点句)

もみじ葉のいづれを採らん吾が姫に
すがれ虫深き草叢昼下がり

艸寛
寿歩

(一点句)

ミスショット枝ごと挽ぎる新松子	互酬
休耕の畑ひろびろ草紅葉	夢心
紅葉のメイク仕上り山競う	徹心
刈り上げの襟足白く薄紅葉	玄鳥
秋茄子に包丁入れれば御馳走や	艸寛
県境の有料橋に銀ヤンマ	互酬
来た道をふと振り返る照紅葉	寿歩
頼朝の隠れし島や秋の暮	玄鳥
あの丘が紅葉メイクで見違えり	徹心

(投句)

草紅葉無言館へ道続く	小牧
道端の黄なるコスモス乱れ咲き	夢心
紅葉を眼下に渡る東福寺	徹心
競うより安全重視の運動会	夢心
待たされて二人蕎麦ととろろ汁	互酬
古戦場彼の人偲び紅葉狩り	小牧
天高し苜蓿に集う渡り鳥	艸寛
夕暮れの虫籠静か竹の虫	寿歩
紅葉度高度で違う大雪山	徹心
空高くフレーフレーの運動会	互酬
ヒダンキョウ被団協と知る秋日和	小牧
目の前の京のもみじ葉艶濃くて	艸寛

『句会後記』 MC

玄鳥(安居)がMC役で、高得点句から順に作句者の意図、選句者の選句理由が語られ、全員で意見交換が為された。毎回であるが、知らない言葉、異なる感性、特異な視点等があり時間の経過が早いひとときであった。同人の殆どは結構な年齢に達したが、俳句の作句には感性、知識、ボキヤブラリー等総動員するので、非常に有効なボケ防止策ではないかと実感する次第である。

(徹心記)

(六点句)

●足跡をさらひて秋の浜辺かな 玄鳥

選評：夏は賑わった浜辺も今は人も疎らで、打ち寄せる波が足跡を消していく。そんな静かな秋の情景がさらりと詠まれています。野山を見つめた句が多い中で最初に目にとまった一句です。

(小牧記)

(五点句)

●つれあひも無言となりて秋の風 玄鳥

選評：些細なことで言い合いとなった夫婦、やがて飽きが来たのか相手が黙ってしまってお互いに気まずい時間が流れ、秋風が吹き抜けていった。男女間の愛情がさめることを秋風が立つというが、黙り込んだ二人に秋風の季語が絶妙である。

句会の作者の弁によるとつれあいは旅の道連れとのこと、作意とは異なった解釈かもしれないがそのままとする。

(夢心記)

(四点句)

●かしこまる若き二人や初紅葉 寿歩

選評：省略が効いている。我が子に交際相手を初めて紹介されたという状況が容易に想像でき、「初紅葉」に嬉しさと時の緩やかな移ろいを感じる。

(玄鳥記)

●つるし柿残照に映え柚の家 小牧

選評：本格的な秋の山村の原風景を観るように、すばり一七文字にまとめ上げ、特に中句の「残照に映え」が際立った秋色の輝きを放っています。韻も良く絵になる美しい句です

(互酬記)